

2013 年度(平成 25 年度)

事業報告書
(第 3 事業年度)

自 2013 年 1 月 1 日
至 2013 年 12 月 31 日



公益社団法人 企業メセナ協議会
Association for Corporate Support of the Arts

目 次

I. 法人の概況	2
1. 公益社団法人設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 公益法人の認定に関する事項	
5. 会員の状況	
6. 役員等	
II. 組織運営の概況	4
1. 会議等の開催状況	
2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進	
III. 事業概要	6
公1:企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及	
1-1. 提言・提案活動	7
1-2. 調査研究事業	7
1-3. 顕彰事業「メセナアワード2013」	8
1-4. 情報発信	10
1) 機関誌『メセナ note』	
2) ウェブサイト運営	
3) 広報活動	
4) 出版、資料収集	
1-5. 普及促進	17
1) セミナー	
2) メセナネットワーク	
3) 地域メセナ交流・推進	
4) 国際交流	
1-6. コーディネート、協力	14
公2:芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業	
2-1. 助成認定制度	21
2-2. 震災復興支援事業「東日本大震災 芸術文化による復興支援ファンド」 ..	21
決算報告 貸借対照表・正味財産増減計算書等	24

I. 法人の概況

1. 公益社団法人設立年月日

2011年1月6日

※ 1990年4月20日設立の旧社団法人は、移行認定に伴い2011年1月5日に解散登記を行った。

2. 定款に定める目的

この法人は、企業をはじめ芸術文化に関わる団体が参加、協働し、芸術文化振興のための環境づくりと基盤整備に努め、創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

この法人は、先の目的を達成するために、次の公益目的事業を行う。

- (1) 企業による芸術文化支援の促進と普及
- (2) 芸術文化支援に関する情報の収集・発信および仲介・協力
- (3) 芸術文化支援に関する調査・研究および文化政策に関する提言・提案
- (4) 国内外の芸術文化振興に関する団体・機関との交流・連携および企業相互の協力・連携による芸術文化支援の推進
- (5) 企業等による芸術文化支援活動の顕彰
- (6) 芸術文化活動への寄付を促す助成に関する事業
- (7) その他公益目的を達成するために必要な事業

この法人は、公益目的事業の推進に資するための事業を必要に応じ行う。

4. 公益法人の認定等に関する事項

当該事業年度(2013年度)において、認定法の規定により内閣府から受けた勧告、または命令はなかった。なお従来、協議会の定款に従い公益目的事業を6項目に分類してきたが、実際の事業内容が複合的であることから以下の2項目に統合することを申請し、認定された。

公1: 企業による芸術文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及

公2: 芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業

5. 会員の状況

正会員:130社・団体 準会員:36社・団体 (2013年12月9日現在)

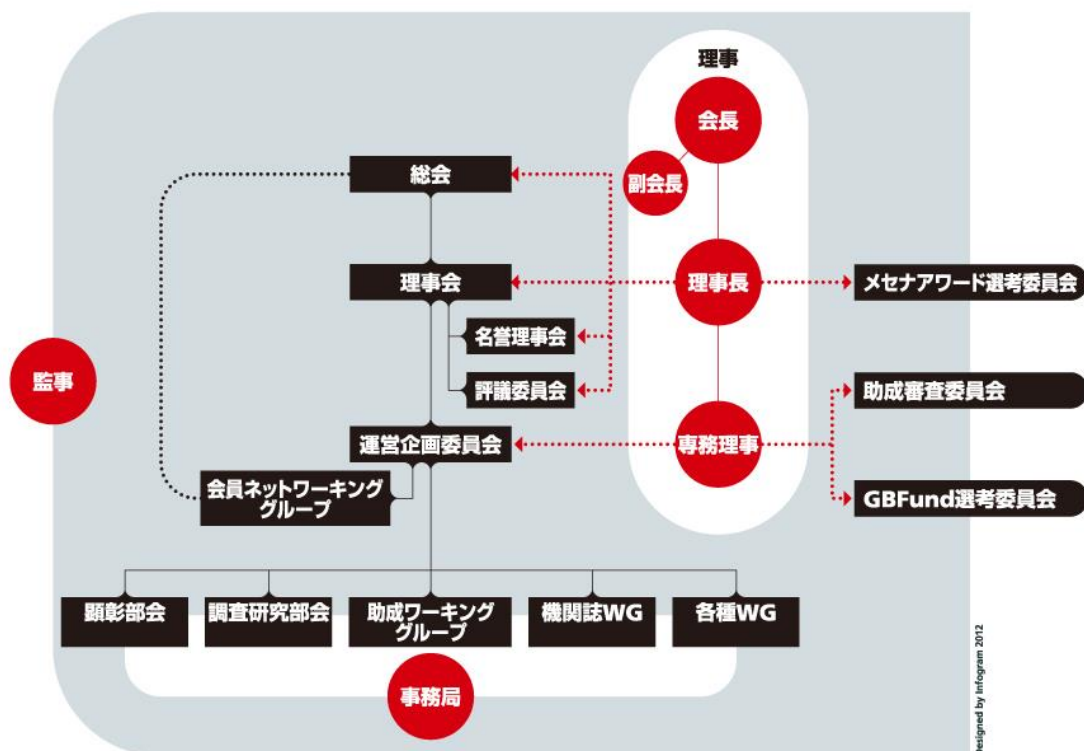
6. 役員等

2013年12月9日現在

会 長	福原義春	株式会社資生堂 名誉会長
副会長	箱島信一	株式会社朝日新聞社 元社長
理事長	福地茂雄	アサヒグループホールディングス株式会社 相談役
専務理事	加藤種男	公益社団法人企業メセナ協議会 専務理事
理 事	一橋 忠	株式会社資生堂 企業文化部 150年史編纂プロジェクト編集長
	片山正夫	公益財団法人セゾン文化財団 常務理事
	高嶋達佳	株式会社電通 会長
	福川伸次	一般財団法人地球産業文化研究所 顧問
	舟橋香樹	大日本印刷株式会社 ICC本部 本部長
	星 久人	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
	南 直哉	東京電力株式会社 元社長
	吉本光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所 主席研究員・芸術文化プロジェクト室長
監 事	岩田武司	弁護士
	太下義之	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 芸術・文化政策センター主席研究員
名誉理事	池田弘一	アサヒグループホールディングス株式会社 相談役
	梅田貞夫	鹿島建設株式会社 相談役
	北島義俊	大日本印刷株式会社 代表取締役社長
	小林一生	日本生命保険相互会社 取締役専務執行役員
	櫻井孝穎	第一生命保険株式会社 特別顧問
	佐々木 元	日本電気株式会社 特別顧問
	佐治信忠	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長 代表取締役社長
	佐藤正敏	株式会社損害保険ジャパン 取締役会長
	杉田亮毅	株式会社日本経済新聞社 参与
	張 富士夫	トヨタ自動車株式会社 名誉会長
	塚本能交	株式会社ワコールホールディングス 代表取締役社長
	福武總一郎	株式会社ベネッセホールディングス 取締役会長
	評議員	足立直樹
上田卓司		株式会社フジタ 代表取締役社長執行役員
竹安 聡		パナソニック株式会社 ブランドコミュニケーション本部 役員 本部長
成田純治		株式会社博報堂 代表取締役会長
野口一彦		キャノン株式会社 執行役員渉外本部長
前田晃伸		株式会社みずほフィナンシャルグループ 名誉顧問
矢崎和彦		株式会社フェリシモ 代表取締役社長

II. 組織運営の概況

公益社団法人 企業メセナ協議会組織図



1. 会議等の開催状況

【定時社員総会】

- 3月6日：2012年度事業報告ならびに収支決算／監事の退任ならびに新監事選任

【通常理事会】

- 2月13日：2012年度事業報告ならびに収支決算／新会員承認／監事の退任ならびに新監事選任を総会に上程する件／定時社員総会の招集
- 12月9日：2014年度事業計画ならびに収支予算／新会員承認／評議員退任ならびに就任

【臨時理事会】

- 3月6日：新会員承認
- 5月29日：新会員承認／公益目的事業の統合／各種規程の改定
- 10月8日：「This is MECENAT | メセナ認定」制度の件／会計規程の改定

【役員・運営企画委員 合同会議】

- 5月29日：「This is MECENAT | メセナ認定」の実施について
- 10月8日：25周年事業について／助成事業のあり方について

【運営企画委員会】

- 1/16、4/23、6/21、7/30、9/4、11/1：理事会との同時開催や役員との合同会議(5/29、10/8)を含め、協議会事業や運営に関わる事項について検討、推進した。会議開催場所となる各社の文化施設の視察を実施し、メセナ情報交換の場ともなった。

2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進

【◎: 部会長／グループリーダー、○: サブリーダー、()内は会議数 * 催し等は除く】

【調査研究部会】 (3回: 2/19、4/22、10/9)

企業・企業財団によるメセナ活動の実態や傾向、意識等を調査し、広く社会に紹介するとともに、メセナ活動を行う企業・実務担当者が求める情報を提供した。

◎吉村真也(TOA)、◎高井健吉(富国生命保険)、相澤麻希子(花王)、酒井香世子(損害保険ジャパン)、山本真由美(トヨタ自動車)、南野嘉治(日本生命保険)、岡崎真理(三井住友銀行)

【顕彰部会】 (6回: 3/1、7/4、7/26、8/6、11/1、12/6)

メセナ活動に取り組む企業・企業財団等を励ますとともに、社会からのメセナに対する関心を高めることを目的とする顕彰事業「メセナアワード」の運営を担った。

◎岡田恭子(資生堂)、細島 芳(第一生命保険)、岡 秀男(中外製薬)、中澤宏昭(電通)、西澤信二(東京急行電鉄)、清水義昭(トヨタ自動車)、森実尚子(日本電気)

【機関誌ワーキンググループ】 (4回: 4/12、7/11、10/21、12/5)

協議会機関誌『メセナノート』の特集テーマや寄稿者、媒体活用方法や展開などを検討した。

室井俊二(板室観光ホテル大黒屋)、石井智子(サントリーホールディングス)、川北 英(竹中工務店)、舟橋香樹(大日本印刷)、坂村道子(フェリシモ)、小栗和子(ホテルオークラ東京)

【助成ワーキンググループ】 (4回: 1/23、4/16、7/24、10/17)

「助成認定制度」および「GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)」をはじめ、今後協議会に求められる助成制度、ファンドのあり方を検討し、制度設計に着手した。

◎大野マリ(日本オラクル)、○山本真由美(トヨタ自動車)、市村作知雄(アートネットワーク・ジャパン)、根本ささ奈(アサヒビール)、片山正夫(セゾン文化財団)、石綿祐子(東京都歴史文化財団)、高萩 宏(東京都歴史文化財団)、吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)、川廷昌弘(博報堂)

【会員ネットワーキンググループ】 (4回: 1/21、3/28、4/17、12/5)

会員相互の交流・連携強化を目的とし、情報交換・相談・研鑽等を恒常的に行える場を設ける。各事業に関連づけた会合を開き、相互のネットワークづくりに貢献した。

◎星 久人(ベネッセホールディングス)、○飯島 健(新国立劇場運営財団)、○宗村 泉(凸版印刷)、宮田昌尚(朝日新聞社)、岡部三知代(竹中工務店)、美馬直輝(Rightning Consulting)、菅沼比呂志(リクルートホールディングス)、天坊真彦(リソー教育)

【入会促進プロジェクトチーム】 (2回: 2/8、6/6)

2013年度は17社・団体に対し入会を働きかけ、4社が正会員に、2団体が準会員として入会した。

◎一橋 忠(資生堂)、○舟橋香樹(大日本印刷)、宮田昌尚(朝日新聞社)、酒井香世子(損害保険ジャパン)、星 久人(ベネッセホールディングス)

上記の各部会・ワーキンググループの会合の他、テーマを設けた合同会議を2回行った。顕彰部会と会員ネットワーキンググループ合同会議(5/13)、助成ワーキンググループと会員ネットワーキンググループのリーダー会議(12/10)。

III. 事業概要

「文化の力」の発信

新たな社会創造に寄与する企業メセナを内外に向けてアピール

2013 年度は、当協議会が掲げるメセナの定義＝「芸術・文化振興による社会創造」をアピールし、この観点から各事業を展開した。象徴的には顕彰事業「メセナアワード」で、日本のものづくりを支える中小企業の創造性や地域の文化資源を活用したまちづくりが注目を浴び、幅広い「文化の力」が浮き彫りになった。また東京都等との共催事業として開催した国際会議では「文化の力で社会変革—文化から見た新たな経済像」をテーマに、文化の経済的側面を強調するだけでなく、多様性や固有性を担保する文化の力が金融経済至上主義に対抗しうる可能性を持つ点について議論を掘り下げた。調査では、メセナ活動の目的として「地域活性」「次世代育成」が指摘され、「GBFund」でも引き続き、祭りや伝統芸能が被災地のコミュニティー形成に果たす役割について認識が深まった。さらに助成認定制度においても「芸術・文化による社会創造」の観点を含めた審査を進めることができた。

これら事業は、企業各社による「芸術・文化振興による社会創造」の取り組みが全国各地で推進されている実態に則したものであり、長年にわたり民間が、多様な日本の文化を支え豊かなものに育ててきた証でもある。メセナの専門機関、文化振興に関する中間支援組織として「文化の力」を示し、社会創造に寄与する企業メセナを内外に向けてアピールする一年となった。

■ 幅広い「文化の力」で地域活性、新たな文化像を提案

- GBFund の取り組みを通じて実感してきた、文化によるコミュニティー形成を訴えるとともに、文化から見た新しい経済像を示すべく、「3.11 メッセージ」を発信。各地の企業メセナによる地域文化の振興も含め、文化の固有性がコミュニティーの基盤となり、地域経済の振興にもつながる点を強調した。同様の観点から、国際会議においても「文化から見た新しい経済像」をテーマに、文化と経済の多様な関わりについて意見を交わした。
- 日本の「ものづくり」の原点となる創造性、「まちづくり」の重要な資源となる地域文化、さまざまな社会課題の取り組む「複合型メセナ」の事例を各事業で積極的に取り上げ、推奨した。それらを通じて「芸術・文化振興による社会創造」とのメセナの意義について、議論を喚起した。

■ 多彩な連携による事業推進と新規事業の展開

- 調査研究や国際会議の事業受託をはじめ、専門機関としてコーディネート事業や外部との協力連携、コンサルティングを展開した結果、前年度よりも事業収益が大きく増加した。
- 会員ネットワーキンググループの発案による「This is MECENAT | メセナ認定制度」の導入に向け、協議会の顕彰事業や情報発信に関する包括的な議論があり、制度設計が進んだ。また会員からの要望によるセミナー企画や情報交換の場づくりなど、会員主体の協議会運営がいつそう活発になり、企業メセナ推進への具体的なアクションに結びついた。

公1:企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及

1-1. 提言・提案活動

■「文化と経済の両輪による社会創造」を提言

- 震災から2年の節目となる2013年3月11日に、「文化と経済の両輪による社会創造を一地域文化の多様性こそが震災復興の礎」と題するメッセージを発表。プレスリリースを発行して広く周知に努めた。
- 4月22日に記者懇談会を行い、同メッセージを含め、メセナの広がりや今後の協議会の方向性についてなど、主要メディアの記者と意見交換を行った。
- 同メッセージに込めた「文化と経済の両輪による社会創造」との考えは、年間を通じて、協議会の各事業に反映された。特に、東京都との共催事業である「文化の力・東京会議」は、「文化から見た新しい経済像」をテーマに開催、本会議前の連続セミナーも含め、文化と経済の多様な関わりについて議論を展開することができた。

1-2. 調査研究事業

■グループインタビューと報告会の実施

- 2012年度下半期に協議会会員を対象に行った調査「“芸術のためのメセナ”から、“社会のためのメセナ”へ 企業の文化に関する取り組みのアンケート」(12/4～14、回答数:104社・団体、回収率:61.1%)を深めるべく、グループインタビューを実施。1月24日にTOA(神戸)で、2月15日に協議会事務所(東京)で行い、17名のメセナ担当者に参加いただいた。メセナ活動に取り組む利点や課題、震災後の取り組みなど、相互に直接意見を交換する機会となった。
- さらに調査結果を広く報告し、より多くの方々とのディスカッションをすべく、以下の報告会を開催した。福原会長の基調講演に始まり、なぜ「企業×アートなのか」についてグループトークを実施。各社のメセナ担当者が本音を共有する貴重な場となった。

「社会のためのメセナが見えてくる！～「企業の文化に関する取り組みアンケート」報告会～」

前年度のメセナ活動実態調査およびアンケート調査の回答から見えてくるメセナの現状を分析、報告。参加者全員によるグループディスカッションで、メセナについて議論を深めた。

- 実施日:2013年4月22日(月)14:30～18:00
- 会場:富国生命ビル 28階会議室(東京都千代田区)
- 協賛:富国生命保険相互会社
- 基調講演:「時代の転換期における文化資本の役割」
福原義春(企業メセナ協議会会長)
- グループトーク&ラウンドテーブル
「メセナのホンネ! “芸術のためのメセナ”から、“社会のためのメセナ”へ」
- モデレーター:吉村真也(TOA)、高井健吉(富国生命保険)
- 参加者:98名(定員80名)



■企業・企業財団に対する「メセナ活動実態調査」を実施

- 前年度に引き続き、企業(全国の上場企業、非上場売上高上位 300 社、協議会会員企業、中小企業を含むメセナアワード応募企業等)4,546 社を対象に、インターネットによるアンケート調査を6/10～7/31 に実施。
- 隔年で行っている企業財団の「メセナ活動実態調査」については、309 団体を対象に、郵送等によるアンケート調査を7/12～8/13 に実施した。
- アンケート実施にあたり、「メセナ」の定義を明確にし、設問の内容を変更するなど回答率を上げるべく回答票を見直した。その結果、企業調査では530社(回答率:11.7%、前年度:492社)から、企業財団は184団体(回答率59.5%)からの回答を得ることができた。
- 本年度は、企業調査と財団調査を同時期に行ったことで、両者のメセナの傾向を比較したり、データを総合的に扱うことができた。活動費総額についても、企業:207億7,473万円(237社)と企業財団603億6,402万円(184団体)をあわせて、メセナ活動費総額811億3,875万円を打ち出すなど、インパクトのある数値を発表できた。
- 時事設問では、海外におけるメセナ活動について尋ね、現地で事業展開をしている企業が「現地の芸術・文化振興」(50.9%)や「現地社会との関係づくり」(42.1%)を目的としてメセナに取り組んでいることがわかった。ただし、現地法人での活動については本社側で把握しきれていないという回答も多く、引き続き、海外での日本企業のメセナの実態について調査を進める必要があると考えている。
- 調査部会による分析を加え、11/5に「2013年度メセナ活動実態調査」結果についてのプレスリリースを発行。情報サイト『リサーチ・リサーチ』、ビジネス情報サイト『ビズハック』、『統計要覧2014』(日本政策投資銀行・年刊)等に掲載された。また調査結果については協議会 WEB にて公開している。
- なお本調査は、文化庁の「平成 25 年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」に採択された(事業受託:9,225,000 円)。

1-3. 顕彰事業「メセナアワード 2013」

■幅広い文化の取り組みを顕彰

- 23 回目となる「メセナアワード 2013」は「芸術・文化振興による社会創造」との観点から、対象分野に「生活芸術」「デザイン」「ファッション」「ものづくり」を加えて、募集と選考を行った。4月1日から5月末までの募集期間に全国から107件(99社・団体)の自薦・他薦による応募があった。うち28件は新規の応募案件だった。
- 顕彰部会の協力を得ながら、約3ヶ月間にわたり応募案件の調査・取材を行い、部会メンバーによる2度の検討会議を経て選考会に諮った。
- 前年度より選考委員が1名退任、新たに2名を迎えて9月に2回の選考会を実施。文化による社会創造を重視し、ものづくりやまちづくりに連携して取り組む活動や、アートを通じた次世代育成などを含め、幅広い活動が受賞にいたった。また今回より「文化庁長官賞」を特別賞に位置づけた(文化庁後援)。

- 贈呈式および記念レセプションを11月21日、スパイラルホール(港区・表参道)にて開催。受賞企業・団体代表者、青柳正規文化庁長官、メセナアワード選考委員はじめ、協議会会員等の企業担当者、芸術文化団体、報道関係者など約270名の参加を得て実施した。
- 贈呈式の開催ならびにトロフィー制作にあたっては、ワコール/ワコールアートセンターの協力を得た。記念レセプションでは、アサヒビール、キリンホールディングス、サントリーホールディングスよりドリンクをご恵贈いただいた。

【メセナ アワード 2013 選考委員】

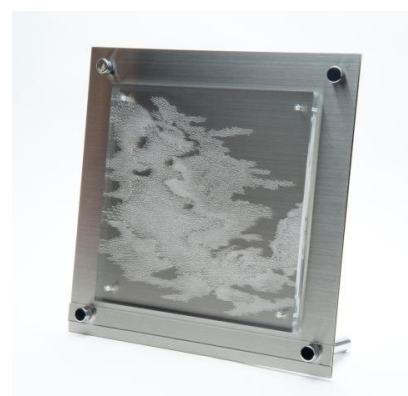
- 赤池 学 (ユニバーサルデザイン総合研究所所長)
 河島伸子 (同志社大学教授、文化経済学会<日本>副会長)
 榎木野衣 (美術批評、多摩美術大学教授)
 福岡伸一 (生物学者、青山学院大学教授)
 松岡正剛 (編集工学研究所所長、イシス編集学校校長)
 茂手木潔子 (上越教育大学名誉教授) *以上五十音順、敬称略
 福地茂雄 (企業メセナ協議会理事長)

【メセナ アワード 2013 受賞活動および受賞企業・団体】

メセナ大賞	特定非営利活動団体全日本製造業コマ大戦協会 全日本製造業コマ大戦
映画の地球儀賞	岩波不動産株式会社 エキブ・ド・シネマー埋もれた名作映画の発掘・上映—
学びの玉手箱賞	SCSK株式会社 CAMP (Children's Art Museum & Park)
対話でアート賞	株式会社損害保険ジャパン、公益財団法人損保ジャパン美術財団 未来を担う小・中学生を対象とした対話型美術鑑賞教育支援活動の展開
タムタムしま賞	トヨタ自動車株式会社 アートマネジメント総合情報サイト「ネットTAM」
光る町なみ賞	村上町屋商人会 町屋に光を当て、町を活性化させ、町屋を守る商人の挑戦
特別賞: 文化庁長官賞	三菱地所株式会社 障がいのある子どもたちの絵画コンクール「キラキラっとアートコンクール」



メセナアワード 2013 贈呈式



メセナ各賞オリジナルトロフィー

1-4. 情報発信

1) 機関誌『メセナ note』

■「メセナの世界発信」を企図したテーマ設定

- 協議会機関誌『メセナ note』の76～79号を次の内容で発行した。機関誌ワーキンググループにより本誌の役割について意見交換を行い、編集方針や企画内容、より効果的な情報発信のあり方について検討を重ねた。また連載コラムの執筆者として、玉岡かおる氏を紹介いただいた。
- 本年度の事業方針である「日本企業のメセナを世界に発信」を重視し、「文化で世界を呼び込もう」(76号)「世界のアートシーンを変える!! 日本のメセナ」(78号)といったテーマを設定した。
- 日本の企業がものづくりから地域づくりまで広く関わっているさまを特集した77号「企業によるソーシャルデザイン」では、「トップ・インタビュー」でトヨタ自動車(株)代表取締役社長の豊田章男氏に取材を行い、「人づくり」「ものづくり」の観点から話を伺った。
- 79号では「メセナアワード 2013」を特集し、各受賞活動を紹介するほか、顕彰部会長の岡田恭子氏による本年のアワードの概観や、選考委員の榎木野衣氏による寄稿を掲載した。
- 発行に際しては、前年度に引き続き、12社からの年間協賛をいただいた。

【『メセナ note』概要】

[体裁]	A5判・32頁、2色刷り
[発行頻度]	季刊・年4回(3月15日、6月15日、9月15日、11月22日)
[発行部数]	3,500～4,000部
[読者層]	協議会会員:約800部、年間購読者:約270部(美術館・NPO・財団など芸術文化団体、個人、企業、大学研究室、シンクタンク等研究機関、公立・大学図書館、行政機関等)。その他、公立・大学図書館・大学・文化施設・セミナー等で配布
[協賛社(五十音順)]	アサヒビール/板室観光ホテル大黒屋/近畿労働金庫(77・79号)/サントリーホールディングス/資生堂/損害保険ジャパン/第一生命保険/大日本印刷/トヨタ自動車/富士ゼロックス/ベネッセホールディングス/ワコールホールディングス

【2013年度発行号(76～79号)概要】

※敬称略

76号(3/15発行) 特集: 文化で世界を呼び込もう—国際社会の中の日本—	
巻頭言:	金代健次郎([公財]福武財団事務局長)
アート者/メセナ考	国際的な視野でのメセナ活動が、企業価値を高める
特集	小林立明(ジョンズ・ホプキンス大学市民社会研究所国際フィランソロピー・フェロー) グローバル化の中の企業メセナ:「クリエイティブ経済」論を手がかりに
	世界のメセナに目を向けよう 楠木 建(一橋大学大学院国際企業戦略研究科(ICS)教授) インバウンドの場を創る
トップ・インタビュー	山村雅之 東日本電信電話(株)代表取締役社長 科学と芸術、人と人をつなぐ「コミュニケーション」による文化創造
アラウンド・メセナ	佐々木芽生(ドキュメンタリー映画監督/プロデューサー) ハーブ&ドロシー 映画製作における「資金集め」の新たな挑戦
メセナ散歩	金谷美術館 地域固有の魅力をいかす「石と芸術のまち・金谷」
文化政策 ウォッチング	加藤種男 ([公社]企業メセナ協議会専務理事) オリンピックは文化の祭典?
連載コラム	長友啓典(グラフィックデザイナー) ④ メセナのこれから

77号(6/15発行) 特集: 企業によるソーシャルデザイン—ものづくりから地域づくりまで—	
巻頭言: アート考/メセナ考	青柳正規(国立西洋美術館長) 工芸—ものづくりの根源—
特集	赤池 学(ユニバーサルデザイン総合研究所所長) 感性価値と公益品質で地域のものづくりを変える 社会をデザインする、地域×企業の活動 特集寄稿: 稲垣早苗(日本毛織株式会社「ニック鎮守の杜プロジェクト」ディレクター) 美の脈脈は日々の中に
トップ・インタビュー	豊田章男(トヨタ自動車[株]取締役社長) 心をつなぎ、未来に向けた「人づくり」「ものづくり」を
アROUND・メセナ	渡辺ゆうか(ファブラボ鎌倉代表) 「世界と一緒に学ぶ」現場にて—21世紀型実験工房ファブラボの実録—
メセナ散歩	田中清光(詩人) 北のアルプ美術館 串田孫一先生とその精神を具現化した山崎猛館長
文化政策 ウォッチング	丹下甲一(鹿児島県前副知事) 地域の再生・振興とアート—遠藤一郎氏のワークを素材に—
連載コラム	玉岡かおる(小説家) ① 文化を殺さなかった名もなき民へ

78号(9/15発行) 特集: 世界のアートシーンを変える?! 日本のメセナ	
巻頭言: アート考/メセナ考	アート考/メセナ考 蔡國強(アーティスト) メセナのリスクとバイタリティ
特集	新川貴詩(美術ジャーナリスト) 新たな芸術文化の担い手を世界に送り出すメセナの営み アーティストを世に送り出すメセナ 特集寄稿: 遠藤信行(TOTO[株]文化推進部 首席企画主幹 TOTO ギャラリー・間代表/ TOTO 出版編集長) 建築文化を醸成するパートナーとして
トップ・インタビュー	秋山智史(富国生命保険[相] 取締役会長) 継続は力なり、よりよい社会づくりのためのメセナ活動
アROUND・メセナ	嘉数道彦(国立劇場おきなわ芸術監督兼企画制作課長) 日々の祝祭を琉球芸能に託して—国立劇場おきなわ 10周年に向けて—
メセナ散歩	吉川真嗣(村上町屋商人会代表) 村上町屋 近代化からまちを守れ! 城下町村上、商人たちによるまちづくりへの挑戦
文化政策 ウォッチング	日沼禎子(女子美術大学准教授) アーティスト・イン・レジデンス—アートの生態系を支える仕組み—
連載コラム	玉岡かおる(小説家) ② 文楽劇場、心で座って満席に

79号(11/21発行) 特集: メセナアワード 2013	
特集	・メセナ大賞: 全日本製造業コマ大戦協会 ・映画の地球儀賞: 岩波不動産株式会社 ・学びの玉手箱賞: SCSK 株式会社 ・対話でアート賞: 株式会社損害保険ジャパン/公益財団法人損保ジャパン美術財団 ・タムタムしま賞: トヨタ自動車株式会社 ・光る町なみ賞: 村上町屋商人会 ・特別賞 文化庁長官賞: 三菱地所株式会社 特集寄稿: 榎木野衣(美術批評、多摩美術大学教授) 「メセナの根っこ」
トップ・インタビュー	「メセナアワード 2013」メセナ大賞受賞: 緑川賢司(全日本製造業コマ大戦協会会長) 小さなコマから日本のものづくり精神を世界へ開く
アROUND・メセナ	甘利彩子(NPO 法人瀬戸内こえび隊ネットワーク事務局長) 瀬戸内国際芸術祭を支える「こえび隊」
メセナ散歩	三上清仁(なかた美術館ディレクター) なかた美術館 近代絵画と空き家が見てきた街
文化政策 ウォッチング	玉木正之(スポーツ&音楽評論家) オリンピックとは、スポーツ(身体競技)とアート(文化プログラム)の合体したものなのだ
連載コラム	玉岡かおる(小説家) ③ 奇跡の浮世絵コレクションを守った男

2) ウェブサイト運営

■多彩なニーズに応じた情報提供

- 2013年1月1日から12月31日までのWEBサイト訪問者数は31,942人(1日平均87.5人)、ページ表示回数は128,348件であった。
- 課題の一つとなっていたWEBサイトのバックアップを実現するため、2013年内にGBFundを除くページを新システムに移行・構築、2014年1月より新サーバでのサイト公開が可能となった。
- 昨今の閲覧環境の動向に鑑み、パソコンだけでなくタブレット端末やスマートフォンからでもWEBサイトが見やすいレスポンシブデザインを導入した。
- メセナに関する幅広い層の関心を高めるべく、TwitterやFacebookを協議会の広報ツールとして積極的に活用した。Twitterのフォロワーが1,351名、Facebookページの「いいね！」(情報発信等コミュニケーションできるユーザー)が864名あり、セミナーの周知や会員のメセナ活動の広報協力も行っている。
- メセナ情報の国際発信に注力していくことから、英語サイトを追加、公開した。

3) 広報活動

■記者懇談会・記者発表会の実施

- 企業メセナの動向と協議会の現状についてプレス関係者への理解を促すべく、主要メディア記者を対象に、4月22日に「特別記者懇談会」を実施した。福原会長、福地理事長、加藤専務理事が出席し、3.11メッセージの内容を中心に、現在の協議会の方針やGBFund等について、詳しく説明した(報道関係者10名参加)。
- 「メセナアワード2013」では受賞活動決定のプレスリリースを発行すると同時に、4年ぶりに記者発表会を行った(10/10)。受賞各社のメセナ担当者が出席し、記者からの質問に直接答える機会を設けたことで、後の取材と記事掲載に結びついた。贈呈式後には、メセナ大賞受賞企業の代表が朝日新聞の「ひと」欄に掲載されるなど、従来とは異なるかたちで「メセナ」への関心を高めることができた。
- 各事業の成果として配信するプレスリリースのほか、新聞、テレビ等メディアからの取材(来局・電話)があり、記事掲載に結びついた。本年はメセナアワードの受賞活動やGBFundの助成先団体を經由して協議会事業が紹介され、問い合わせを受けるというケースもあった。

【プレスリリースによる情報発信】

※掲載実績＝メセナアワード:70件、GBFund:27件

No.	配信日	リリースタイトル
1	3/11	企業メセナ協議会からのメッセージ・2013「文化と経済の両輪による社会創造を一地域文化の多様性こそが震災復興の礎―」
2	4/2	「メセナアワード2013」(第23回)の対象活動を募集―芸術・文化を通じた創造的で活力ある社会づくりを進める企業・企業財団を表彰―
3	6/5	東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド「GBFund」第8回助成活動を決定・寄付総額1億円達成
4	10/10	ものづくり文化をはじめ、社会創造への実践を表彰―メセナの新たな展開へ―「メセナアワード2013」受賞企業決定
5	11/5	地域を拠点とする活動が拡大―一人のつながりがメセナを広げ、メセナが新たな人のつながりを生む―2013年度「メセナ活動実態調査」結果
6	11/22	震災後発となる岩手県田の浜八幡宮五年祭を助成―東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド「GBFund」第9回助成活動を決定

【主な取材対応】

対応日	媒体	内容	掲載・放映日
5/1	毎日新聞	GBFund から知る被災地の郷土芸能について	来局 6/29
8/22	毎日新聞 仙台総局	『GLOBE』特集「祭りをつくる、祭りがつくる」 GBFund 百祭復興プロジェクトの活動状況について	来局 10/6
10/31	月刊公論	企業メセナの動向について	来局 12/20

4) 出版、資料収集

■メセナ情報の提供とライブラリー運営

- 機関誌『メセナ note』の年間購読者の維持・管理とバックナンバーの頒布、既刊発行物の在庫管理と広報、販売を行った。

【年間書籍売上件数:127 冊】

- 『メセナ note』No.37～75:75 冊
- 『メセナセミナーシリーズ』 35 冊(うち「No.10」31 冊)
- 『メセナを知る本』 11 冊
- 『メセナ白書シリーズ』(1991～2000) 5 冊
- 『メセナマネジメント』 1 冊



- 協議会事務所のライブラリーでは、企業メセナ・社会貢献、CSR 活動および文化政策、アートマネジメント等に関する情報収集活動を行い、レファレンス対応も積極的に行った。資料検索や閲覧・コピーなど利用しやすい状況を整えた。

【ライブラリー概要】

公開時間	月曜～金曜日、11:00～17:30(要電話予約)
開架資料	<ul style="list-style-type: none"> 和書・報告書: 1,450 冊(企業と文化・社会貢献、文化行政・文化政策、アートマネジメント・文化経済学、公益法人・NPO・文化税制、名簿・年鑑・一覧) CSR 報告書: 244 冊 洋書: 562 冊(14 カ国の文化政策、アートマネジメント関連) 企業・企業財団の資料: 約 1,055 企業・団体分 新聞・雑誌掲載記事(1989 年 12 月～2012 年 12 月) 定期刊行物: 世界のメセナ組織、行政、芸術団体、研究機関、NPO、他 映像資料: 約 364 点(メセナニュース、主催セミナー(1998-2001 年)、贈呈式、各社のメセナ他)
年間利用者数	13 名(大学、専門学校生、企業、文化団体等)



1-5. 普及促進

1) セミナー


■メセナの現場に即したセミナー企画

- 企業やメセナに携わる方々のニーズをくみ取ることを重視し、会員からの提案や要望を聞いてセミナーを企画した。助成ワーキンググループより提案のあった、寄付税制と還付に関するセミナー、メセナ管理職懇談会や若手セミナーなど、現場に即し実務につながる内容となった。
- 各社のメセナ担当の部門長、若手担当者として、それぞれ同じ立場の人たちに参加いただいたことで、より実情に即した話を聞くことができた。特に若手セミナーはゲストと参加者による親密な対話が生まれた。
- メセナの現場を訪れる「フィールド視察」では、2 回目の開催となる瀬戸内国際芸術祭を視察。地域活性を重視するメセナが多い昨今、文化による地域振興の代表例である同芸術祭は、ベネッセと地元行政、地域市民の連携による運営が印象的だった。
- 瀬戸内国際芸術祭の視察では、ディレクターの北川フラム氏にレクチャーいただき、また、ボランティア組織の「こえび隊」にガイドとして入ってもらったため、作品のみならず、島の歴史や文化について詳しい話を聞くことができた。また地元の方々から話を伺う機会をつくり、地域の歴史や特性を知る機会となった。

【セミナー】

1	「確定申告で感じよう！寄付の喜び」～寄付税制・還付の仕組みを知る～
寄付と税金の仕組みや確定申告による還付の方法、さらに寄付の喜びを伝える方法を学ぶ場として開催。 • 実施日:2013年2月21日(木)14:30～16:40 • 会場:日本財団ビル会議室 • 講師:脇坂誠也(税理士/認定NPO法人NPO会計税務専門家ネットワーク理事長) • 参加者:38名	
2	メセナ部門管理職懇談会「企業におけるメセナ活動の位置づけについて」
部門長経験者をゲストに迎えテーマをもとにお話しいただき、同じ管理職である参加者同士で情報・意見交換を行う場として開催。 • 実施日:2013年9月4日(水)17:00～18:30 • 会場:SHIBAURA HOUSE • ゲスト:嶋田実名子(花王株式会社 コーポレートコミュニケーション部門 社会貢献部長) • 参加者:21名(うち、一般2名)	
3	メセナ若手担当者セミナー「我が社のメセナ活動を社内外に伝える方法」
メセナ担当経験者をゲストに迎えテーマをもとにお話しいただき、先輩メセナ担当者と近距離での対話を通して参加者が具体的に「メセナ担当者像」を描けるような場として開催。 • 実施日:2013年10月2日(水)17:00～18:30 • 会場:企業メセナ協議会 事務局 • ゲスト:岡部三知代(公益財団法人ギャラリーエークウッド 主任学芸員)、 山本真由美(トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部) • 参加者:3名	

【フィールド視察】

4	瀬戸内国際芸術祭フィールド視察
<p>ベネッセアートサイト直島のメセナ活動を契機に始まった芸術祭を訪れ、作品鑑賞のみならず、島の文化や地域活性などとアートがどう結びつき力を発揮するのか、島の個性と魅力を感じながら考える機会として実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実施日:2013年10月5日(土)～7日(月) • 視察先:小豆島、豊島、直島、男木島、女木島 • ガイド:こえび隊、北川フラム氏(瀬戸内国際芸術祭ディレクター) • 参加者:26名 	
	

2) メセナネットワーク

■会員主導の交流の場づくり、「メセナ美術部」発足

- 年始の賀詞交歓会は、前年秋にリニューアルオープンした東京芸術劇場にて開催。パイプオルガンの演奏やバックステージの見学など、普段とは異なる特別な機会を設けた。理事はじめ100名を超える会員が参加し、部会・ワーキンググループの活動紹介や、情報交換・交流を促した。
- 運営企画委員会の開催に伴い、会場をご提供いただく各社の文化施設や活動についてもあわせて案内いただき、情報交換の機会を設けた(大日本印刷:ギンザ・グラフィック・ギャラリー、凸版印刷:印刷博物館、パナソニック汐留ミュージアム、鹿島建設社屋、電通:アドミュージアム東京、セゾン文化財団:森下スタジオ)。
- 会員ネットワークワーキンググループ幹事の企画で、「新入会員ファーストミーティング」を行い、5社・団体、9名の新会員が参加した。
- 美術館やギャラリーなどの施設を運営するメセナ担当者の情報交換と交流を促す「メセナ美術部」を発足。会員ネットワークワーキンググループのメンバーより「部長」「副部長」を配し、現場の視察とレクチャー、懇親会を設けた。会員以外にも、同様の活動をしている企業の担当者に参加を呼びかけ、協議会への入会を促す機会ともした。
- 約1,500名が登録する会員メールマガジンを毎月初めに定期配信。協議会が主催する各種催しの案内のほか、会員のメセナ情報やセミナー等の情報も発信。さらに詳細な活動レポートを公式サイト内「会員専用ページ」に掲載するなど、タイムリーな情報発信に努めた。
- 加藤専務理事の主催による「タネ Cafe」を、事務局ライブラリースペースにて開催(2/7、3/13、5/22、7/17)。アートや文化に関わる幅広いトピックスを中心に語り合うゆるやかな会合で、会員はじめ文化関係者が毎回10名ほど集う、情報交換と交流の場となった。



【賀詞交歓会】

1月16日(水) 14:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> • 会場:東京芸術劇場(東京都豊島区池袋) • 参加者:約100名 <p>2012年秋にリニューアルオープンした同館のバックステージツアーとパイプオルガン演奏などの特別プログラム</p>
-------------------------	--

【新入会員ファーストミーティング】 ※会員ネットワークワーキンググループ主催

7月25日(木) 15:30～17:00	<ul style="list-style-type: none"> • 会場:SHIBAURAHOUSE(東京都港区三田) • 参加者(※新会員):山田真也、森下 匠(原田) / 牧田 隆(油機エンジニアリング) / 鈴木裕士、須山 剛、館野怜子(金谷美術館) / 三浦規成(KAWASAKI アーツ) / 福田成康、谷口永利子(全日本ピアノ指導者協会)
-------------------------	--

【メセナ美術部】 ※会員ネットワーキンググループ主催

<p>6月18日(火) 17:30～19:30</p>	<p>第1回メセナ美術部「資生堂ギャラリー訪問」</p>  <ul style="list-style-type: none"> • レクチャー&ナビゲーター:樋口昌樹(資生堂 企業文化部) • 場所:リクルート会議室、資生堂ギャラリー「椿会」見学(東京都千代田区) • 参加者:企業ギャラリー・美術館などの企画・運営担当者 23名
<p>11月7日(木) 16:30～18:30</p>	<p>第2回メセナ美術部「ギャラリーエークウッド&竹中工務店社屋ツアー」</p>  <ul style="list-style-type: none"> • レクチャー:川北英(同館長)、松隈章(同企画マネージャー) • ナビゲーター:岡部三知代(ギャラリーエークウッド主任学芸員) • 場所:ギャラリーエークウッド(竹中工務店東京本店1階/東京都江東区) • 参加者:18名

3) 地域メセナ交流・推進

■各地のメセナ推進、文化政策の振興に寄与

- 加藤専務理事および事務局職員が各地の商工会や文化団体等から招聘される機会を活かし、企業メセナに関する情報提供と地域の文化団体との交流に努めた。自治体の文化政策に関する委員を務めることも多く、地域の文化振興における企業の役割について意見を求められる機会が増えている(沖縄、熊本、静岡、横浜、埼玉ほか)。中でも沖縄では、メセナの連続セミナーの企画が始まるなど、具体的なアクションにつながっている。
- 協議会の関西事務所である関西・大阪 21 世紀協会を拠点とし、メセナ関連の相談を受ける「メセナよろず相談日」を数回実施(1/24、3/25・26、7/8・9、8/8・9、11/7)。大阪・京都・神戸を中心に活動する文化団体から、主に助成認定制度の利用に関する相談を受けるほか、関西の企業が中心に発足する「アーツサポート関西(ASK)」に関する相談に応じた。あわせて、会員企業をはじめメセナに取り組む企業を訪問した。
- 「文化の力・東京会議」では、文化による地域活性に取り組む企業経営者等をゲストに招き、事例紹介と意見交換を実施。地域固有の価値を高めることで世界とつながる好事例の数々を取り上げ、地域メセナの充実ぶりを積極的にアピールした。
- アート NPO リンクが主催する「全国アート NPO フォーラム in 神戸」(11/8-10)では、パネルディスカッションの構成と進行に協力し、まちづくりや地域活性に取り組む企業を紹介、企業と中間支援組織の連携や、相互に支えあう仕組みづくりについて議論を掘り下げた。
- 「メセナアワード」受賞活動や「GBFund」助成決定のプレスリリース等の発行に際し、該当する地域のメディアに働きかける試みも行った。

4) 国際交流

■国際会議の実施と内外のネットワーク形成

- 10月の国際会議に向けた連続セミナーで、ブリティッシュ・カウンシルの協力により英国アーツカウンシル戦略部門ディレクターのリチャード・ラッセル氏に公開インタビューを実施。本会議の翌日にはリトリート会議を行い、海外の文化政策関係者と協議会理事を中心に意見交換を行った。
- 約2ヶ月に一度、大使館や文化関係機関を訪問。オーストラリア大使館、ブリティッシュ・カウンシル、アジア・カルチュラル・カウンシル、ゲーテ・インスティテュート、台北文化センター、韓国文化院の7機関を訪れ、情報交換に努めた。
- 韓国より POSCO のメセナ担当者、フランスよりルーブル美術館、アンスティチュ・フランセ東京館長、アメリカよりアジア・カルチュラル・カウンシル理事長が、日本のメセナの現状について情報収集のため来局し、今後のネットワーク構築に向けて意見を交わした。
- WEB サイトの英語ページの内容を見直して更新したほか、機関誌『メセナ note』では年間を通じて国際交流を企図したテーマを設定、「メセナ活動実態調査」でも海外でのメセナ活動について設問を設けるなど、各事業においても国際的な情報収集と発信に注力した。
- 「協議会設立四半世紀 国際会議」を開催するため、特定資産として800万円を積み立てた。

1-6. コーディネート、協力

■メセナの専門機関として多彩な連携により事業推進

- 東京都等との共催により、「文化の力・東京会議 2013」を開催。4回の連続セミナーに続き、本会議とリトリート会議を実施した(6/12、6/26、7/3、8/6、10/25・26)。協議会としても国際会議の実施は数年ぶりで、内外のネットワーク形成と今後の国際事業の展開に資する機会となった。
- 例年継続している会員2者との協働・協力事業に引き続き注力したほか、会員企業のメセナプログラムのコンサルティングや評価の要望にも応じた。
- メセナおよび文化振興に関する専門機関として、企業をはじめ行政や教育機関、アート NPO 等からの相談、講師や各種委員としての協力依頼に積極的に対応した。

【2013年度の受託案件】

※敬称略

依頼元	受託内容
トヨタ自動車	<p>「トヨタ・アートマネジメント」プログラムのコーディネート</p> <p>アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」(www.nettam.jp)の企画・運営、月例更新(コンテンツ制作)、SNSによる広報。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10周年を迎えるネット TAM のサイトリニューアルとリアルイベント実施に向けた検討 • 更新内容:メルマガ配信(毎月1日・15日)、リレーコラム(毎月1日公開)、取材、新コンテンツ立ち上げ • 一日のアクセス:平均1万8459 ページビュー(PV) • 月間アクセス:平均56万PV • 累計アクセス:約2125万PV(2010年4月~2013年12月)



ネット TAM ロゴマーク

<p>アサヒグループ 芸術文化財団</p>	<p>すみだ川アートプロジェクト(SRAP)の企画・推進</p> <p>2089年まで80年間続くSRAPの4年目。夏のメイン期間をはじめ年間を通じて、多彩なアーティストや市民が集う催しを展開。</p> <p>①「Oh!Tango pARTy」 参加者数:80名 実施日:5月6日(月・祝) 会場:アサヒ・アートスクエア</p> <p>②「江戸を遊ぶ:ないまぜや!鶴屋南北」 会期:6月15日(土)~7月31日(水) 会場:アサヒ・アートスクエア、アサヒグループ本社ビル1階&周辺広場、 屋形船@隅田川、牛嶋神社、浅草寺伝法院ほか(東京) 主催:すみだ川アートプロジェクト実行委員会、アサヒグループ芸術文化財団 共催:AAFネットワーク実行委員会、墨田区 特別協賛:アサヒビール、企画協力:企業メセナ協議会 協力:アートNPOリンク、イーストワークス エンタテインメント、NECディスプレイソリューションズ、Gallery PARC、グランマール、トッピングイースト ほくさい音楽博、ものこ市実行委員会、配財プロジェクト 来場者:3152名、野外:約6000名(アンサンブルズ・パレード参加:約300名)、ロビー来訪者:約3000名(予想)</p> <p>③「Oh!Yukimi pARTy」 実施日:12月2日(月) 会場:アサヒ・アートスクエア 参加者数:約50名</p>
<p>東京都、 東京文化発信プロジェクト 室(東京都歴史文化財団)</p>	<p>「文化の力・東京会議 2013」の企画・運営</p> <p>特別協力: 国際交流基金、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)ブリティッシュ・カウンシル</p> <p>①連続セミナー 18:30~20:30 トーク/21:00~ 懇親会 会場:3331 Arts Chiyoda 1階コミュニティスペース モデレーター:荻原康子(企業メセナ協議会事務局長) 6/12(水)ゲスト:中村俊郎(中村ブレイス[株]代表取締役) 参加者数:53名 6/26(水)ゲスト:白川昌生(アーティスト) 参加者数:56名 7/3(水)ゲスト:梅原 真(デザイナー) 参加者数:63名 8/6(火)ゲスト:リチャード・ラッセル(英国アーツカウンシル戦略部門ディレクター) インタビュアー:太下義之(三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター主席研究員)、コーディネーター:湯浅真奈美(ブリティッシュ・カウンシル) 参加人数:60名</p> <p>②文化の力・東京会議 2013 文化の力で社会変革—文化から見た新しい経済像— 日時:10/25(金) 16:00~20:00 会場:都民ホール 参加者数:161名 *Ustream 中継あり 基調講演 I: ヨゼフ・フォグル(ベルリン・フンボルト大学教授) 基調講演 II: 岩井克人(国際基督教大学客員教授) パネルディスカッション: ヨゼフ・フォグル、岩井克人、 パスカル・ブリュネ(Relais Culture Europe ディレクター)、 矢崎和彦([株]フェリシモ代表取締役社長)、 フェレンシア・フタバラット(クリエイティブ・エコノミー・コンサルタント)、 山出淳也(NPO 法人 BEPPU PROJECT 代表理事)、 モデレーター:加藤種男(東京都歴史文化財団エグゼクティブ・アドバイザー)</p> <p>③リトリート会議 日時:10/26(土)14:00~17:00 会場:国際交流基金さくらホール 出席者:17名 国際会議登壇者(フォグル、ブリュネ、フタバラット)、 海外文化関係者、東京都生活文化局、東京都歴史文化財団、企業メセナ協議会(片山理事、吉本理事、太下監事、森実運営企画委員、事務局長、坂本)</p> 

【協力対応状況】

■メセナプログラムの評価・提案等:2件

※依頼元:五十音順

依頼元	内容(依頼期間)
株式会社損害保険ジャパン	「損保ジャパン人形劇場ひまわりホール」に関する検討 (平成24年11月30日～平成26年11月末日)
NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク	NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク評価委員 (2011年度～2013年度)

■委員・役員:29件

依頼元	内容(委嘱期間)
特定非営利活動法人アートNPO リンク	理事、監事
一般財団法人おおさか創造千島財団	理事兼選考委員
沖縄県	沖縄県文化振興会アドバイザー
京都文化ベンチャーコンペティション実行委員会	第7回「京都文化ベンチャーコンペティション」審査委員 (2013年6月21日～2014年3月)
国際交流基金	「2013年度国際交流基金地球市民賞」選考委員 (2013年12月17日～)
埼玉県	埼玉県文化活動サポート団体助成事業審査委員会 (2013年5月1日～2014年3月31日)
埼玉県芸術文化振興財団	評議員
さいたま市	文化都市創造審議会議長
静岡県	静岡県文化政策審議会委員 (2012年5月23日～2014年5月22日)
総務省	地域力創造アドバイザー
財団法人地域創造	「災後における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究」 (2012年12月1日～2013年3月31日)
東京都生活文化局	東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者評価委員会委員 (2013年6月21日、年2回)
公益財団法人東京都歴史文化財団	エグゼクティブ・アドバイザー、 アーツカウンシル東京カウンシルボード議長
公益財団法人東京都歴史文化財団	東京文化発信プロジェクト外部評価委員 (2012年7月25日～2015年6月30日)
公益財団法人東京都歴史文化財団	トーキョーワンダーサイト外部評価委員 (2011年7月1日～2014年6月30日)
NPO 法人日本 NPO センター	NPO 法人日本 NPO センター評議員
八戸市	ポータル・ミュージアム「はっち」アドバイザーリーボード委員長
公益財団法人福武財団	文化と芸術による地域振興の助成選考委員
株式会社富士通総研	「文化政策の評価手法に関する調査研究」に係る検討会 (2012年12月27日～2013年3月29日)
文化芸術による復興推進コンソーシアム	文化芸術による復興推進コンソーシアム運営委員 (2012年5月30日～2014年5月31日)
文化芸術による復興推進コンソーシアム	文化芸術による復興推進委員 (2013年9月6日～2014年3月31日)
文化庁	平成24年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業協力者会議委員会 (2011年11月28日～2013年3月31日)
文化庁	平成25年度「文化庁文化交流使事業」運営実施業務企画選定委員会委員 (2013年5月9日～2014年3月31日)
文化庁	文化芸術の海外発信拠点形成事業協力者会議委員 (2013年8月9日～2014年3月31日)

文部科学省	文化審議会政策部会委員
文部科学省	政策評価に関する有識者懇談会委員
横浜市	創造限界形成推進委員会(2011年9月1日～2015年8月31日)
横浜市	横浜市広報企画審議会(2013年4月～2014年3月)
横浜市創造限界形成推進委員会	「新港ふ頭展示施設(ハンマーヘッドスタジオ新・港区)」事業評価分科会(2012年11月1日～2013年8月31日)

■講師:6件

依頼元	内容(期間・実施日)
青山学院大学大学院	総合文化政策学研究科「ミュージアムのファンドレイジング」(2013年6月19日)
沖縄タイムス社	タイムス・メセナセミナー～企業の文化支援の新しいカタチ 第1回「企業だからこそできる文化支援とは」(2013年12月18日)
21世紀社会デザイン学会	「企業メセナと社会創造」(2013年5月25日)
日本大学芸術学部	「芸術総合講座Ⅰ」アート・マネージメント(2013年11月5日)
美術教育学会	基調講演「昔のやり方の可能性について」(2013年8月22日)
文化遺産国際協力コンソーシアム	文化遺産国際協力コンソーシアム第13回研究会「文化遺産保護の新たな担い手―多様化するニーズへの挑戦」(2013年9月5日)

■出演:6件

依頼元	内容(期間・実施日)
特定非営利活動法人アートNPOリンク	全国アートNPOフォーラム in 東北「東北で幸せを考える」(2013年1月26～28日)
特定非営利活動法人アートNPOリンク	全国アートNPOフォーラム in 神戸「これからの10年を考える」セッション『神戸を拠点に活動する市民団体・企業等の活動紹介と、市民活動をささえる仕組みについて話し合う』(2013年11月9日)
一般社団法人気仙沼風待ち復興検討会	「文化遺産とまち、ひと、復興」東京大会シンポジウム(2013年12月20日)
特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会	ファンドレイジング日本・2013(2013年3月9日)
文化芸術による復興推進コンソーシアム	文化芸術による復興推進コンソーシアム シンポジウム「文化芸術を復興の力にⅡ」(2013年3月15日)
文化庁	文化庁文化交流使フォーラム 2013(2013年3月8日)

■寄稿:3件

依頼元	内容(媒体・発行日)
大阪府・大阪市	『「大阪アーツカウンシル設立に向けた事業調査・フォーラム開催等」事業報告書』(2013年3月)
文化芸術による復興推進コンソーシアム	調査研究報告書「教護芸能が未来に問うもの―GBFund『百祭復興プロジェクト』を通じた一考」(2013年5月)
文化庁	『文化庁月報』平成25年6月号(No.537) 連載「文化交流使の活動報告」文化交流使フォーラム 2013

■後援:5件

依頼元	内容(期間・開催日)
特定非営利活動法人アートNPOリンク	全国アートNPOフォーラム in 神戸「これからの10年を考える」(2013年11月8日～10日)
企業文化交流委員会	秘蔵の名品アートコレクション展「モネ ユトリロ 佐伯と日仏絵画の巨匠たち―フランスの美しき街と村のなかで―」(2013年8月7日～9月1日)
「世界劇場会議国際フォーラム 2013」実行委員会	「世界劇場会議国際フォーラム 2013」(2013年2月8日～9日)
特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会	ファンドレイジング日本・2013(2013年3月9日～10日)
バリ・金谷インターナショナルアートウィーク実行委員会	バリ・金谷インターナショナルアートウィーク(2013年12月2日～8日)

公 2: 芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業

2-1. 助成認定制度

■制度の抜本的な見直しに着手

- 助成認定制度のあり方を抜本的に見直すべく、今後の方向性について助成ワーキンググループにて検討:①規模の大きな活動を継続する実行委員会には公益法人化・認定NPO化を勧める、②個別の寄付コーディネート検討など、運営企画委員会、理事会でも意見を求めた。あわせて恒常的に本制度を利用している申請者へのヒアリングを行った。
- 審査基準について一部改訂し、「芸術・文化の普及向上」とともに「芸術・文化による社会創造への寄与」の観点を加えた。
- 本制度の審査委員長として、青柳正規氏の文化庁長官着任に伴い、近藤誠一氏(前文化庁長官、外務省参与)を迎えた。
- 2013年度は4回の審査委員会を実施。認定件数は前年度より35件減ったものの、寄付件数は246件増え、寄付金額は5億5,429万円と大幅に増加した。

【2013度の認定件数】

	実施日	認定件数	申請件数
第1回審査委員会	3月1日	25件	29件
第2回審査委員会	6月13日	28件	32件
第3回審査委員会	9月25日	28件	37件
第4回審査委員会	12月4日	13件	15件
	合計	94件	113件

※ 2011年度:認定件数125件、申請件数153件、2012年度:認定件数129件、申請件数153件

【寄付件数と寄付金額】

年度	寄付件数	寄付金額	平均寄付金額/件
2013年度	1,353件	5億5,429万円	40.9万円
2012年度	1,107件	3億4,223万円	30.9万円
2011年度	946件	2億8,581万円	30万円

2-2. 震災復興支援事業

「東日本大震災 芸術文化による復興支援ファンド」(GBFund)

■寄付金総額1億円を達成

- GBFund設立当初に目的としていた寄付金総額1億円を、5月末に達成することができた。当ファンドは少なくとも5年間継続することを定めており、目標金額を2億円に改めて、引き続きの寄付を募っていくこととする。
- 本年度は第8、9回のGBFund選考会を行い、43件を助成活動として採択した。申請件数は依然として100件を超えており、被災地主導の活動も増えている。百祭復興プロジェクトについては、特に岩手県からの申請が多く、行政機関を通じた周知が広がったものと考えられる。

- 選考に際しては、①被災者の心のケアにつながることを期待される／②被災地固有の文化資源にかかわる活動であり、地域再生の契機となることを期待される／③体制や活動計画が十分に検討されており実現の可能性が高い、という従来の観点に、④中長期にわたる活動で、社会創造へ繋がることを期待される、という項目を追加した。

【GBFund 選考委員】

- 片山正夫 (ゼノン文化財団常務理事)
- 加藤種男 (企業メセナ協議会専務理事)
- 俵木 悟 (成城大学文芸学部文化史学科准教授)
- 船曳建夫 (文化人類学者)
- 吉本光宏 (ニッセイ基礎研究所主席研究員・芸術文化プロジェクト室長)

【寄付総額・助成状況】

[当面のファンド目標額]	200,000,000 円
[寄付総額]	1 億 1,662 万 6,295 円 (2012/12/31 現在の着金済)
[寄付件数]	437 件
[助成総額]	1 億 231 万 4,365 円 (2013/12/31 現在、寄付先指定寄付を含む)
[助成活動件数]	196 件

【2013 年度の助成件数と助成金額】

GBFund 選考会開催日	申請数	採択(助成)数	助成総額
第 8 回選考(2013/5/27)	169 件	28 件	999 万 615 円
第 9 回選考(2013/11/11)	105 件	15 件	499 万 9,500 円
合計	274 件	43 件	1,499 万 115 円

※2012 年度(第 6 回・第 7 回):申請数 337 件、採択数 65 件、助成総額 2,612 万 913 円

■情報発信の強化

- 朝日新聞社の協力により作成された、GBFund の助成先団体の活動ムービーを 3 件、WEB で公開したほか、各団体から提出された活動報告書を WEB に掲載した。
- 震災復興における文化の役割について意見交換する外部の会議等に招かれ、GBFund の活動状況について発表する機会を得る他、文化による復興支援コンソーシアム等に参加した。

①芸術文化助成財団協議会との連絡会議(1/25)、②アートNPOリンクフォーラム「東北で幸せを考える」(1/26-28 於:仙台)、③文化芸術による復興推進コンソーシアム シンポジウム「文化芸術を復興の力にⅡ」(3/15)、④同ネットワーク会議(10/18 於:郡山)、⑤「文化遺産とまち、ひと、復興」東京大会シンポジウム(12/20)



東日本大震災
芸術・文化による
復興支援ファンド

企業メセナ協議会

■助成先団体の活動を視察

- GBFund「百祭復興プロジェクト」に 2 年にわたる寄付を行ってきたジャパン・ソサエティーへの報告と継続支援を依頼すべく、助成先団体の活動等を関係者で視察した。地域の郷土芸能が、コミュニティ復興に果たす役割について現場を見ながら考えた。助成先の郷土芸能団体の方々や地元の方々との交流にも努めた。

助成活動視察 福島県いわき市「堂田薬師大尊祭」

- 実施日:7月27・28日
- 視察先:福島県いわき市(権仲青年会じゃんがら念仏踊り、いわき回廊美術館・いわきアリオス・UDOK、薄磯地区・塩屋崎灯台ほか)
- 内容:大尊祭見学と町内視察 説明:田仲 桂(TSUMUGUプロジェクト)
- 参加者:11名



以上